

令和4年度全国学力・学習状況調査

各学校での分析と校内研修での活用について

【教科に関する調査編】

熊本県教育委員会

- 1 各学校での分析と取組**
 - (1) 分析の意義とポイント**
 - (2) 分析の方法**
 - ① 問題分析から授業改善へ**
 - ② 正答率等の結果から授業改善へ**
 - ③ 同一集団の経年変化から授業改善へ**

- 2 実践編「校内研修での活用」**

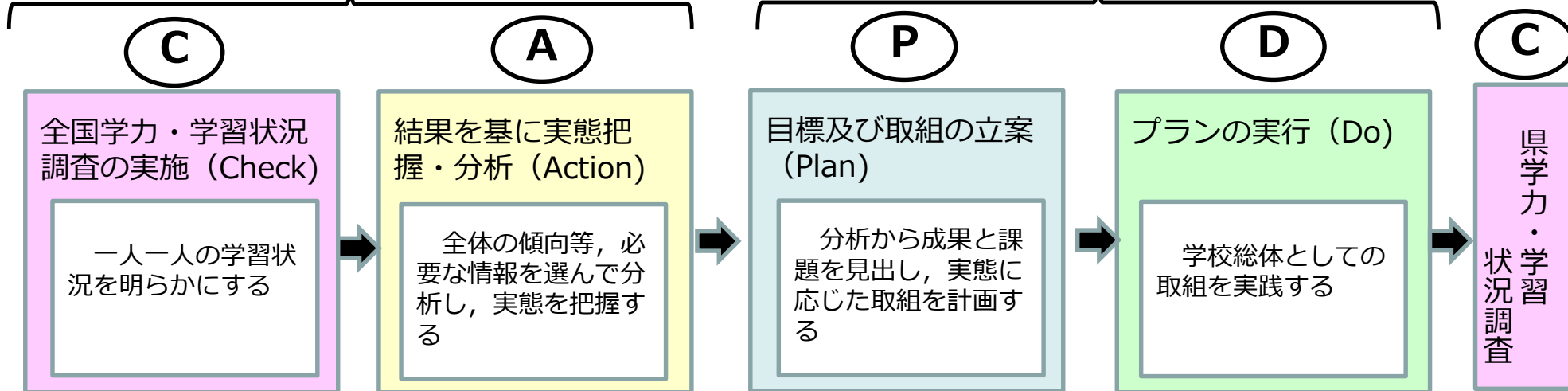
1 各学校での分析と取組

1 - (1) 分析の意義とポイント

<分析の意義>

◇学力、学習状況調査の結果から、各学校の授業や学びの保障の取組状況が把握できます

◇調査結果を分析し、共有することで、課題解決に向けた授業改善が充実します



結果分析から、自校の「熊本の学び推進プラン」や「『熊本の学び』アクションプロジェクト」に関する取組の成果と課題を見付け、課題改善に向けた取組計画の立案と実践を行いましょう。

1 - (1) 分析の意義とポイント

<分析のポイント>

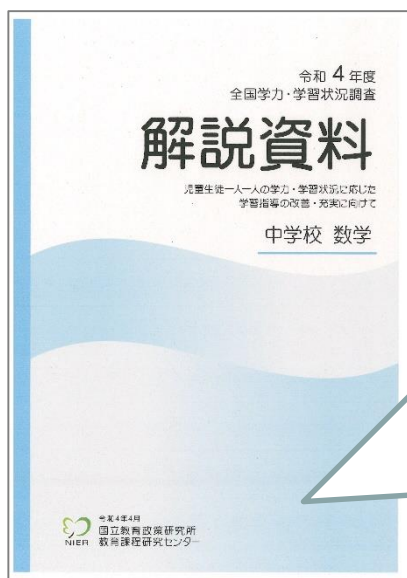
◇各学校での分析と校内研修での活用について

【教科に関する調査編】

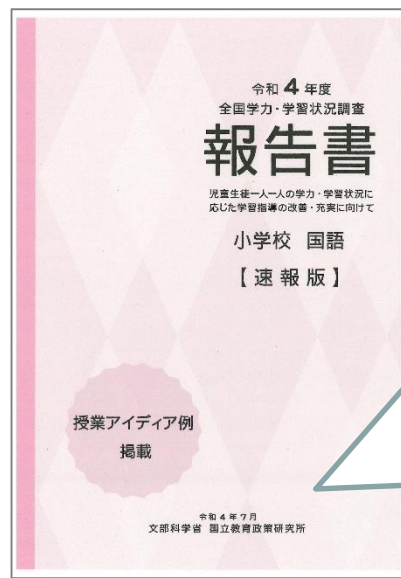
◇各学校での分析と校内研修での活用について

【質問紙調査編】

全国学力・学習状況調査の解説資料と報告書が分析と改善の拠り所となります。



調査終了後、速やかに学力や学習の状況、課題を把握し、学習指導の改善・充実等に取り組む際に参考となる資料



結果提供後、設問ごとの解答状況、成果や課題の有無、特徴的な解答の分析等、学習指導の改善・充実を図る際のポイントを示した資料

※ 質問紙においては、経年変化や学力とのクロス分析を掲載

◇教科に関する調査の結果から授業改善へ

方法①：問題分析から授業改善へ

方法②：正答率等の結果から授業改善へ

方法③：同一集団の経年変化から授業改善へ

※ 本校の重点取組(活用)シートと併せて活用する。

※P7参照

まずは、課題改善に向けた重点取組と各学校で使用する
重点取組（活用）シートを確認しましょう！



【次の検証(R4県学調・R5全学調)へ向けて、学校総体で重点的に取り組むこと】



[R4熊本県学力・学習状況調査及びR5全国学力・学習状況調査において検証]

【参考指標1】児童生徒質問紙
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

【参考指標2】児童生徒質問紙
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。

【参考指標3】児童生徒質問紙
家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか。



各教科の平均正答率

状況の向上を目指す

●児童生徒を「学びの主体」とするための指導の充実

①授業における主体的な学びを促す学習活動の充実

※単元全体を見通して、「自分で考える」「自分の考えを工夫して発表する」「自分の学びを振り返る」等の自ら取り組む学習場面を確実に設定する。

【参考】単元デザインの工夫(本渡中)、家庭学習と次時につなげる振り返り活動(渡小)【R3取組事例集第3章】

②家庭学習における主体的な学びの充実

※児童生徒が計画的に家庭学習に取り組むことができるよう、丁寧な指導を行う。

【参考】スケジュール作成(御船中)【推進プランP93】、委員会活動による自学コンクール(小川中)【推進プランP94】



③定着確認の徹底

※単元(授業)ごとに最低限習得すべき事項が身に付いているか確認し、分かる喜びや達成感が実感できるよう、身に付くまで粘り強く指導する。

【参考】タブレットPCの活用(産山学園)【R3アクションプロジェクト取組事例集】、振り返りの視点の共有(緑東中)【R2取組事例集第3章】

●各教科における課題の克服

①課題である問題の確認とその克服

※(継続して)課題である問題の解答状況を把握し、本課が提供する「授業改善のポイント」、「類似問題」等を参考に、その克服を図る。

【参考】単元末における全学調等問題の活用、全学調等問題と類似した定期テスト問題の作成【県教育委員会HP】



【課題の改善に向けた今後のスケジュール(例)】

★各学校で、必ず取り組むもの(時期は各学校で設定)

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
結果分析と取組の共有 →校内研修に位置付け(県教委HP掲載資料「校内研修シート」の活用等)	★(継続して)課題である問題の克服 →授業での確実な確認	★課題改善重点期間 →重点取組(上記)の確実な実践		県学調実施 →実施後、課題と思われる問題については即座に対応	結果分析と指標達成に向けた重点取組の改善 →同一集団の「伸び」や指標の達成状況の確認、結果分析を踏まえた重点取組の改善と確実な実践		★課題改善重点期間 →重点取組の確実な実践(フォローアッププリントの活用、R2・3全学調の課題改善状況の確認) →児童生徒自らの課題分析、課題克服のための取組の推進	全学調実施 ※参考指標における状況の向上 ※全教科で全国平均を上回る

本校の重点取組(活用)シート

課題改善重点期間(月 日 ~ 月 日)

●児童生徒を「学びの主体」とするための指導の充実

①授業における主体的な学びを促す学習活動の充実

※単元全体を見通して、「自分で考える」「自分の考えを工夫して発表する」「自分の学びを振り返る」等の自ら取り組む学習場面を確実に設定する。

P **D** <具体的取組(いつ・何を・どのように把握)>

②家庭学習における主体的な学びの充実

※児童生徒が計画的に家庭学習に取り組むことができるよう、丁寧な指導を行う。

P **D** <具体的取組(いつ・何を・どのように把握)>

③定着確認の徹底

※単元(授業)ごとに最低限習得すべき事項が身に付いているか確認し、分かる喜びや達成感が実感できるよう、身に付くまで粘り強く指導する。

P **D** <具体的取組(いつ・何を・どのように把握)>

●各教科における課題の克服

①課題である問題の確認とその克服

※(継続して)課題である問題の解答状況を把握し、本課が提供する「授業改善のポイント」、「類似問題」等を参考に、その克服を図る。

A <結果を基に実態把握・分析>

完了時期()

P <目標及び取組の立案>

完了時期()

D <プランの実行>

実行期間()

〔取組の検証〕



C

【参考指標1】児童生徒質問紙

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
 県・小学校:74.7%(全国差-2.6)
 県・中学校:73.0%(全国差-6.2)
 学校の現状() 結果
 県学調目標値()→()

【参考指標2】児童生徒質問紙

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。
 県・小学校:69.3%(全国差-1.8)
 県・中学校:54.7%(全国差-3.8)
 学校の現状() 結果
 県学調目標値()→()

【参考指標3】児童生徒質問紙

家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか。
 (そのままにしている割合)
 県・小学校:15.5%(全国差+3.9)
 県・中学校:14.6%(全国差+3.7)
 学校の現状() 結果
 県学調目標値()→()

C

各教科の平均正答率
 →前年度からの「伸び」

1 – (2) 分析の方法①「問題分析から授業改善へ」

◇問題の分析は、授業改善につながります。

【問題分析の視点】

- ① 「題材」に着目する
- ② 「構成」や「配列」に着目する
- ③ 「問い方」に着目する
- ④ 「解答類型」に着目する
- ⑤ 過去の学力・学習状況調査の類似問題に着目する

次ページから、小・中学校国語の問題を例に、①～⑤の視点から分析し、授業改善のポイントを示します。

1 - (2) 分析の方法①「問題分析から授業改善へ」

①「題材」に着目する

- ・ 日常生活と関連する事象を扱う
- ・ 対話的な学びの場面を扱う
- ・ ICTを活用しているなどの学校生活の場面を扱う

授業改善に生かすポイント

○本問題のように、子供たちの対話的な学びによって課題の解決に向かうような単元を構想したり、一単位時間の授業を組み立てたりしましょう。

全国学力・学習状況調査の問題には、教科の枠を超えて、授業改善につながるたくさんのヒントがあります。

R4年度中学校3年生国語より

1 川口さんは、国語スピーチを記録し、そのあとの問いに答えたい。

「川口さんのスピーチ」

最近、ふだんの生活で感じます。その変化は例えば、授業でインターネットで離れた場所へやりとりをスムーズにしています。

先日、総合的な学習の時間でインターネットを使い、やりとりをしてみました。

「スピーチを動画に撮って話し合う」という場面設定

ことについてスピーチをする学習に取り組んでいます。川口さんは、動画に自分のスピーチを撮っています。次の「川口さんのスピーチ」と「二人の会話の一部」を読んで、

「二人の会話の一部」

田中「ここで動画を止めてもらえますか。最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。」という部分は、聞き手を引き付けるために、呼びかけたり問いかけたりする表現にしてみました。①「やりとりをスムーズに行いにくい」という部分は、私も同じように感じたことがあります。この後のスピーチの内容に興味をもつことができましたのでよいと思います。

川口 ありがとうございます。



1 - (2) 分析の方法①「問題分析から授業改善へ」

②「構成や配列」に着目する

- ・心情, 相互関係, 人物像, 表現の順序で問う構成

R4年度小学校6年生国語 ②より

授業改善に生かすポイント

- どんな力を身に付けるのか整理し, どの順序でどんな課題を設定するのかを考え, 単元をデザインしていきましょう。

4 問目

1 色の表現を使い
2 「ぼく」が体験
3 空と風を表す表
4 「ぼく」が過去

3 問目

○ ○ この物語から伝
○ 十字以上、三十

2 問目

1 「物語の一部
2 「物語の一部
3 「物語の一部
4 「物語の一部
5 「物語の一部

1 問目

1 森田さんは、ふせんをよったところから「変換して

表現について問う (情景描写を基に)

人物像を問う (物語の全体像を基に)

相互関係を問う (文章全体の描写を基に)

心情を問う (ある部分の叙述を基に)

心情や行動, 相互関係から人物像を考えていく中で, 部分から全体へ, 全体から部分へと読みが深まるようにします。また, 情景描写にも心情を読み解くための表現があることを学習する単元デザインの例として活用できます。

小国-14

小国-13

1 - (2) 分析の方法①「問題分析から授業改善へ」

③「問い方」に着目する

- ・ 丁寧で具体的な問い方
- ・ 1文に1つの指示や発問



授業改善に生かすポイント

- あいまいな発問にせず、教科等の見方・考え方を働かせるような具体的な発問にしましょう。
- 一度に、いくつもの指示や発問を行わず、一つの指示のあとに、きちんと子供の状態を見取り、把握した上で、次に進みましょう。
- 相手意識や目的意識を持ったり、状況を整理打ちすることも大切です。

R4年度小学校六年生国語 ③より

(問い) 島谷さんは、川口さんと伝え合ったことをもとに、自分の文章のよさをふり返り、書くことにしました。あなたが島谷さんなら、どのようなよさを書きますか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 「文章2」のよさを書くこと。
- 「文章2」から言葉や文を取り上げて書くこと。六十字以上、百字以内にとめて書くこと。

R4年度中学校三年生国語 ②より



立場を明確にし、「何を問われているのか」で目的意識を持つようにします。そして、条件を示すことで、的確な表現で答えることができます。

三 小林さんは、上野さんと中村さんからの「コメントの一部」を踏まえて、 で囲まれた

た「スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。」のすぐあとに、

スマート農業の効果を書き加えることにしました。あなたがどのようなように書きますか。次の

条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「農林水産省のウェブページにある資料の一部」から必要な情報を引用して書く

こと。引用する部分は、かぎかっこ「 」でくくること。

条件2 「例えば、」に続けて書くこと。

1 – (2) 分析の方法①「問題分析から授業改善へ」

④「解答類型」に着目する

- ・ 誤答を予想



授業改善に生かすポイント

- 子供たちのつまずきから、指導の改善を図りましょう。
- 一時間のゴールや単元のゴールを明確に把握しましょう。

解説書では、設問毎に「解答類型」と「解答類型について」が記載されており、予想される解答から、身に付いている力や考えられるつまずき等が記述されています。



解答類型

問題番号	解答類型	正答
②	三 (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から適切な情報を抜き出して書いている。 ② 引用する部分をかぎかっこ(「 」)でくくって書いている。 ③ 「例えば、」に適切に続くように書いている。 (正答例) ・ (例えば) 農林水産省のウェブページにある資料には、作業の自動化による「情報共有の簡易化」なども効果として挙げられている。	
1	条件①、②、③を満たして解答しているもの	◎
2	条件①、②を満たし、条件③を満たさずに解答しているもの	
3	条件①、③を満たし、条件②を満たさずに解答しているもの	
4	条件②、③を満たし、条件①を満たさずに解答しているもの	
99	上記以外の解答	
0	無解答	

■解答類型について

○【解答類型1】は、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができています。【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から、スマート農業の効果として適切な情報を抜き出し、引用する部分をかぎかっこ(「 」)でくくるとともに、「例えば、」に適切に続くように書いている。

○【解答類型2】は、文と文とのつながりを考えて、適切に書くことに課題がある。ここでは、「スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。例えば、」に適切に続くように書く必要がある。具体的な例としては、以下のようなものが考えられる。

(例)
 ・ (例えば)「スマート農業について」「情報共有の簡易化」「データの活用」

○【解答類型3】は、引用する部分を明らかにすることに課題がある。具体的な例としては、以下のようなものが考えられる。

(例)
 ・ (例えば) 情報共有が簡易化されたり、様々なデータを活用することができたりする。

○【解答類型4】は、自分の考えが伝わる文章になるように、適切な情報を抜き出して書くことに課題がある。ここでは、【農林水産省のウェブページにある資料の一部】から「作業を自動化すること」以外の効果を抜き出す必要がある。具体的な例としては、以下のようなものが考えられる。

(例)
 ・ (例えば) 農林水産省の資料には、「スマホ」や「ドローン」などが挙げられている。

1 - (2) 分析の方法①「問題分析から授業改善へ」

⑤ 過去の学力・学習状況調査の類似問題に着目する

授業改善に生かすポイント

- 題材や問い方を授業づくりの参考にしてみましょう。
- 問題の定着率を比較し、指導の在り方を再確認しましょう。

R4年度 全国学力・学習状況調査問題(中学校3年生国語)より

R3年度 県学力・学習状況調査問題(中学校1年生国語)より

スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ。

【コメントの一部】

上野
他にどのような効果があるのかを具体的に書いた方がよいのではないのでしょうか。

中村
私も同感です。スマート農業の効果を書き加えることで、小林さんが、自分の考えの根拠として示しているこの段落の内容が分かりやすくなると思います。

三 小林さんは、上野さんと中村さんからの「コメントの一部」を踏まえて、で囲まれた「スマート農業には、作業を自動化すること以外の効果もあるようだ」のすぐあとに、スマート農業の効果を書き加えることにしました。あなならどのように書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

条件1 「農林水産省のウェブページにある資料の一部」から必要な情報を引用して書くこと。引用する部分は、かきかこ()「」で囲むこと。

条件2 「例えば、」に続けて書くこと。

文章の一部について、意見や感想、資料を基に条件に沿って書く。

4. 今後の対応

美化委員会では、校内アンケート調査の結果をもとにして、これまでのやり方を改善します。「活動に参加しない理由」を示した(資料4)から、ことが分かります。そのため、今後、美化委員会では、。こうすることで、活動に参加する生徒が増え、美化活動がより活発になるとよいと考えています。

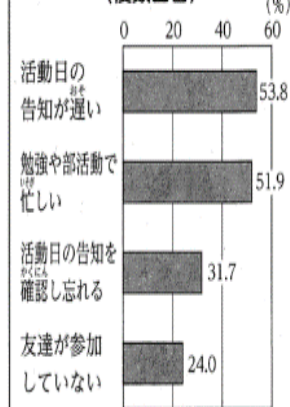
渡辺さんの考え
(資料4)の「活動に参加しない理由」の中には、美化委員会のやり方による原因があるものがある。それを一つ明確に挙げよう。そして、その改善案を具体的に書こう。

条件1 「渡辺さんの考え」をもとにして書くこと。
条件2 には、(資料4)から読み取ったことを、具体的に数値を挙げて一つ書くこと。
条件3 には、(資料4)から読み取ったことを解決するための改善案を、自分で考えて具体的に書くこと。



〈資料4〉活動に参加しない理由

(複数回答) (%)



(3) 渡辺さんは、次のように考えて、「報告文の下書き」の「4. 今後の対応」を書いています。・に当てはまる言葉を、あとの条件1から条件3にしたがって書きなさい。

1 – (2) 分析の方法①「問題分析から授業改善へ」

◇「問題分析の視点」は、**定着問題や定期考査の作成**にも役立ちます。

- ① 「題材」に着目する
- ② 「構成」や「配列」に着目する
- ③ 「問い方」に着目する
- ④ 「解答類型」に着目する
- ⑤ これまでの全国学力・学習状況調査の類似問題に着目する

問題を、該当学年での定着確認やレディネステストに活用することも考えられます。

また、定着問題や定期考査などの作成の際に、「題材」、「構成」「配列」、「問い方」を参考にすることができます。

1 – (2) 分析の方法②「正答率等の結果から授業改善へ」

◇正答率等の分析は、授業改善につながります。

【分析の流れ】

- ① 成果と課題を洗い出す
- ② 学校全体で課題となるような「問題」を抽出する
- ③ ②の問題について、課題改善のための取組を考える

次ページから、中学校数学を例に、①～③の分析の流れを示しています。

①成果と課題を洗い出す視点

・ **正答率**に着目する

まずは、正答率を県や全国と比較してみましょう。正答率の高さから、成果と課題を見付けていきましょう。

・ 「**内容や領域**」, 「**評価の観点**」, 「**問題形式**」に着目する

成果や課題が、ある内容や領域、評価の観点、問題形式に特徴的に現れてくることもあります。そこに着目すると、各学校や教師のそれまでの「取組」や「強み」、「弱み」を知ることができます。

・ **無解答率**に着目する

正答率が高くても、無解答率が高い場合があります。逆に正答率が低くても、無解答率も低い（子供たちが何かしら、記述しようとしている）こともあります。

・ **反応率**に着目する

解答類型から「反応率」を見てみると、子供たちの誤答の状況や躓きやすさが見えてきます。正答率が高くても、誤答が偏った反応を示している問題は、課題と捉えることができます。



今年の3年生数学は、「図形」の領域の問題がよく解けていた。数学担当の〇〇先生の「図形」の授業に、授業改善のヒントがあるな。



小学校国語の「4二」の問題は正答率が高いけど、間違っって「3」と解答している子供も多いな。指導の方法を見直す必要があるな。

1 - (2) 分析の方法② 「正答率等の結果から授業改善へ」

②課題となる問題の抽出

・正答率に着目する

正答率が5割未満で、全国平均を下回っている。

・反応率に着目する

解答類型から、 y 座標を読み取ることができていない誤答が23.1%である。

また(37, 5) (38, 5)等の誤答が17.0%である。

授業改善に生かすポイント

- 問題を実際に解いてみる。
- 提供されたデータの問題別(解答類型)調査結果と「解説書」の解答類型を参考に、子供のつまづきがどこにあるか確認する。

R4年度 中学校3年生数学より

●中学校数学8(1)(本県49.3%, 全国54.6%, -5.3)

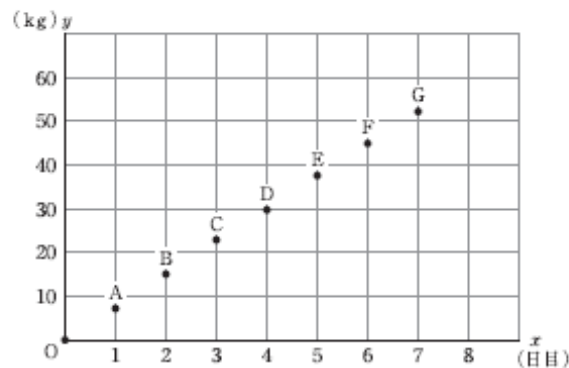
そして、家庭でできる二酸化炭素削減の取り組みの中から、生徒それぞれの家庭でできることを選んで取り組むことにしました。その取り組みの成果について、1日ごとの学校30人分の削減量をもとに、その日までの二酸化炭素削減量の合計を記録することにしました。

取り組みを始めた日の前日を0日目とし、 x 日目までの二酸化炭素削減量の合計を y kgとして、次のように表にまとめ、表の x と y の値の組を下のグラフに表しました。

二酸化炭素削減量の合計の記録

x (日目)	0	1	2	3	4	5	6	7
y (kg)	0	7.2	15.2	22.8	29.7	37.8	44.9	52.4

※ y の値は小数第2位を四捨五入



次の(1)、(2)の各問に答えなさい。

- (1) 二酸化炭素削減量の合計の記録のグラフにおいて、点Eの座標を書きなさい。

問題の一部

(1) 二酸化炭素削減量の合計の記録のグラフにおいて、点Eの座標を書きなさい。

1 - (2) 分析の方法② 「正答率等の結果から授業改善へ」

③課題改善の取組

① **目指す子供の姿**を共有する。

- その問題が解けることによって、どんな力が身に付くのか
「目指す子供の姿」を考え、共有する。

② **目指す子供の姿**に向けた取組を実践する。

- 目指す子供の姿の育成に必要な**学習指導を、調査対象学年だけではなく全学年で行う。**

(例) グラフ上の点が具体的な事象では何を表しているのかを捉える活動を通して、与えられた表やグラフを関連付けて、必要な情報を適切に読み取ることができるよう指導する。

(例) 全学調の問題を、該当学年の定着問題や定期考査の問題作成の参考とする。

※問題別調査結果を見ると、出題の趣旨や該当学年が分かります。

問題番号	問題内容	調査対象学年	正答率	標準偏差	最大値	最小値	平均値	中央値	四分位範囲
8 (1)	与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く	5	0.2	0.1	0.5	0.0	0.1	0.1	0.1
8 (2)	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる	5	0.2	0.1	0.5	0.0	0.1	0.1	0.1

出題の趣旨が分かります

8 (1) 与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く

与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる

1(1)
ア(2)
イ(4)

該当学年が分かります

1 – (2) 分析の方法③「同一集団の経年変化から授業改善へ」

◇同一集団(学校, 学年, 学級など)の正答率等の経年変化から授業改善へとつなげましょう。

※個人一人一人の経年変化から, 一人一人の課題克服に取り組みましょう。

【分析の視点】

①「伸び」に着目する

- ・現小学6年生が小学5年生の時の県学調と比べる。
- ・現中学3年生が中学2年生の時の県学調と比べる。
- ・現中学3年生(令和4年度)が小学校6年生の時(平成31年度)の全学調と比べる。

次ページからは, 県全体の結果を例に, 伸びに着目した分析を行い, 授業改善のポイントを示します。

1 - (2) 分析の方法③ 「同一集団の経年変化から授業改善へ」

①「伸び」に着目する

- ・県学調の結果と比べる
- ・前回の全学調の結果と比べる



授業改善に生かすポイント

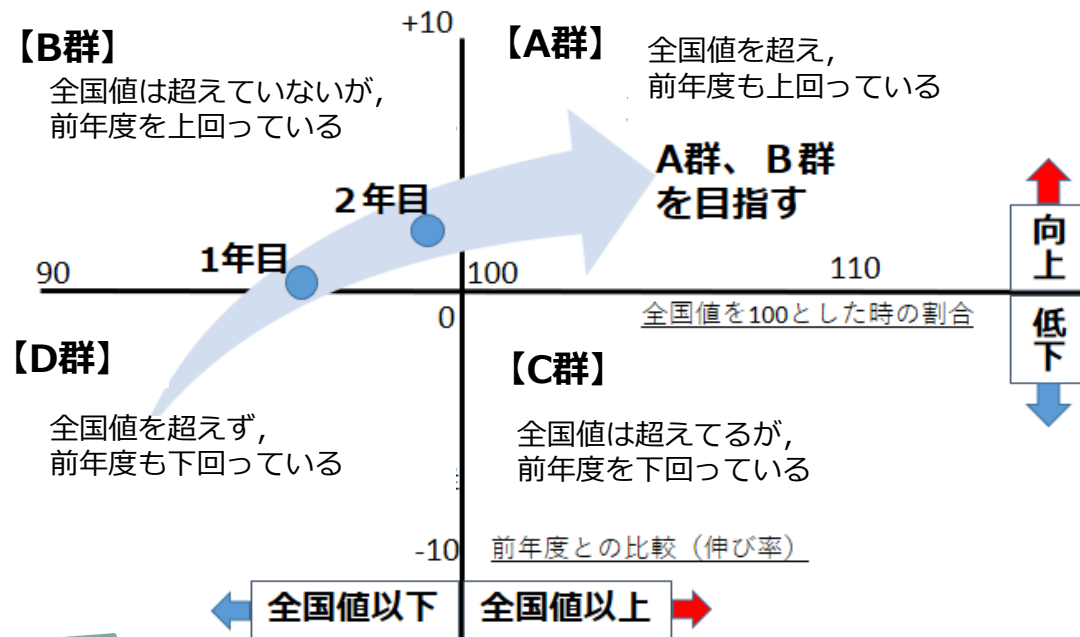
- 伸びの見られる教科や学年の取組を共有する。
- 伸びが見られなかった教科や学年について、これまでの取組を振り返り、改善を図る。

◇同一集団の伸びに着目した分類

「熊本の学び」アクションプロジェクトハンドブックより一部修正

学校群の4分類
について

※横軸は、全国値を100とした時の割合、
縦軸は、前年度と比較した伸び率
(全国値を100とした時の割合の差)を算出。

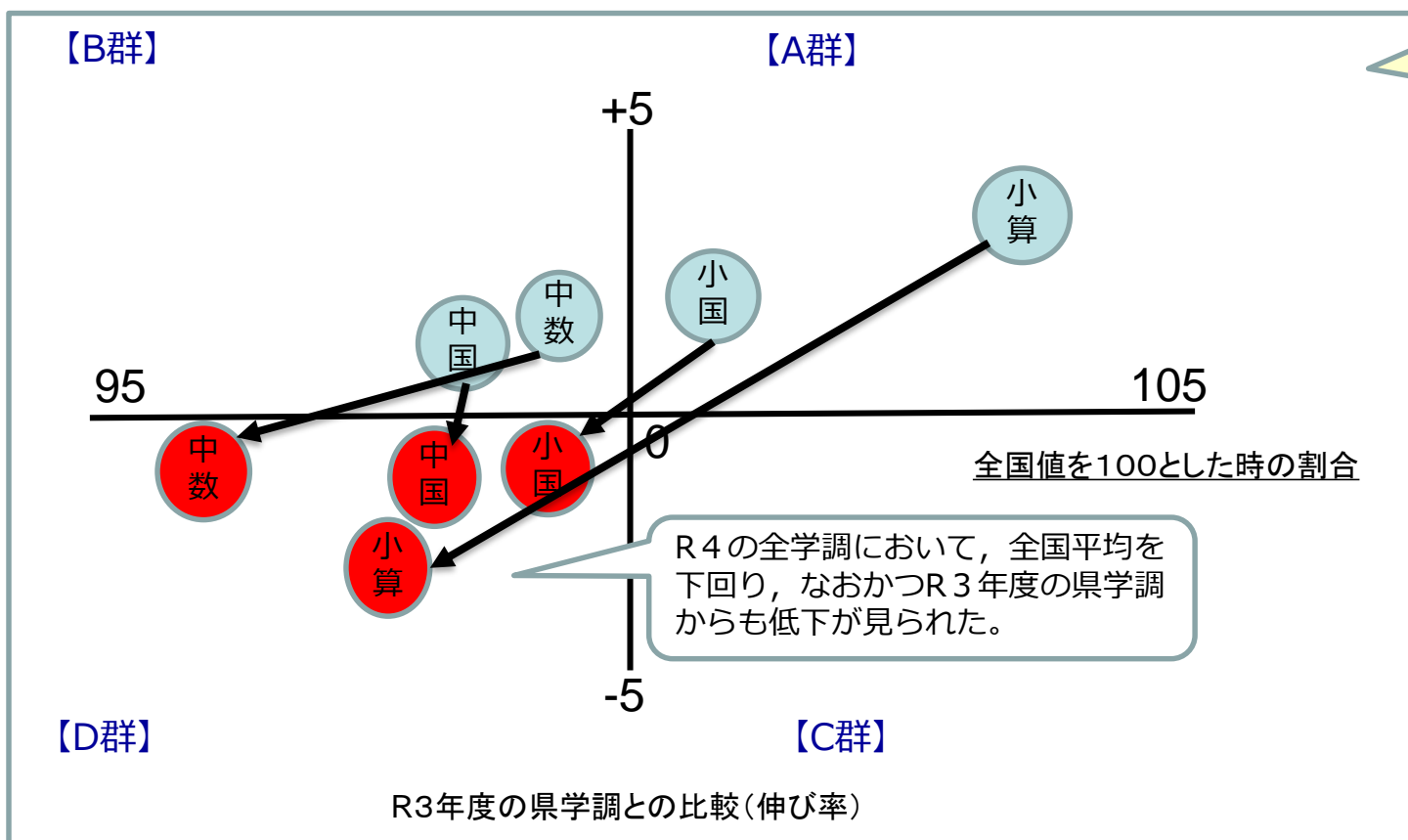


- ①令和3年度県学力・学習状況調査の結果から、自校が【A群】～【D群】のどこに位置するか確認する。
- ②令和4年度全国学力・学習状況調査の結果から、自校が【A群】～【D群】のどこに伸びたか確認する。

2 - (2) 分析の方法③ 「同一集団の経年変化から授業改善へ」

①「伸び」に着目する

◇本県の ● R3県学調 → ● R4全学調の「伸び」



【A～C群】：該当なし
【D群】：小国, 小算, 中国, 中数

～分析～
国語, 算数・数学において、伸びが見られず、R3県学調後の課題克服の取組が十分ではなかったと考えられる。

～今後の取組～
・中学校国語・数学において授業力向上研修会をオンラインで実施
(9/5: 数学, 9/22国語)
中学校の国語・数学担当全員が対象

※県学調と全学調では、全国の調査に参加している母体数は異なっています。

1 - (2) 分析の方法③ 「同一集団の経年変化から授業改善へ」

①「伸び」に着目する

◇「伸び」の分類が難しい場合は、表で表す方法もあります。

本県のR3→R4の「伸び」

		国語		算数・数学	
		(全国平均を100としたときの県の割合)		(全国平均を100としたときの県の割合)	
		R3県学調 (小5時, 中2時)	R4全学調 (小6時, 中3時)	R3県学調 (小5時, 中2時)	R4全学調 (小6時, 中3時)
小学校	本県	101.6	99.1	104.9	98.1
	伸び		-2.5		-6.8
中学校	本県	99.4	98.6	99.9	95.3
	伸び		-0.8		-4.6

※ 教科全体の結果に限らず、内容や領域、評価の観点、問題形式など、各学校や各先生方が重点とされている内容の「伸び」について比べることができます。そこに着目していくと、各学校や教師のそれまでの「取組」や「強み」、「弱み」を知ることができます。

1 - (2) 分析の方法③ 「同一集団の経年変化から授業改善へ」

①「伸び」に着目する

◇前回の全学調と比べる（中学校3年生が、小学校6年生の時（平成31年度）の状況と比べる）

※H31年度実施時は、A・B問題のため、A・B問題それぞれの正答率の平均を算出

	国語 (全国平均を100としたときの県の割合)		算数・数学 (全国平均を100としたときの県の割合)	
	H31全学調 (小6時)	R4全学調 (中3時)	H31全学調 (小6時)	R4全学調 (中3時)
本県	101.9	98.6	99.1	95.3
伸び		-3.3		-3.8

～分析～ 中学校3年生では、小学校6年生の時より低下しており、小学校と中学校の連携や中学校1年生での取組が必要である。

～取組～ 全ての学年において、その学年で身に付けるべき学力を定着させるために、誰一人取り残さない学びの保障と教員一人一人の授業力向上（「熊本の学び」アクションプロジェクト）に取り組む

授業改善に生かすポイント

○中学校区全体での学びの保障、小中連携した授業改善を図る。

2 実践編 「校内研修での活用」

◇これまでの分析の方法を基に、全国学力・学習状況調の分析について、校内研修を行きましょう。

- ① 問題分析から授業改善へ
- ② 正答率等の結果から授業改善へ
- ③ 正答率等の経年変化から授業改善へ

次のページからは、校内研修のシートを掲載しています。そのまま印刷して活用していただくこともできます。御活用ください。

校内研修シート① 「問題分析から授業改善へ」

◇各学校でも問題を
分析してみましょう。

取り出した問題：教科() 大問()の()
※平均正答率：自校()%，県()%

①「題材」や「配列」，「問い方」の工夫について，話し合みましょう。

②「解答類型」から，自校のこどもたちのつまずきを確認しましょう。

③ 過去の調査問題の類似問題を探してみましょう。

・ () 年度の () 年生

(教科) 大問 () の ()

○学校総体で取り組む内容を
まとめましょう。

成果が見られた内容

○ 出題の趣旨や【問題番号】、自校や本県、全国の正答率、差などを書き入れましょう。

課題が見られた内容

○ 出題の趣旨や【関連番号】、自校や本県、全国の正答率、差などを書き入れましょう。

◇各学校でも、課題となった問題を抽出し、誤答例から考えられる授業での子供の姿と指導のポイントを書き入れましょう。

課題となった問題

●問題番号(大問 の)
 (自校 %, 本県 %, 全国 %)

誤答例から考えられる授業での子供の姿

授業改善のポイント

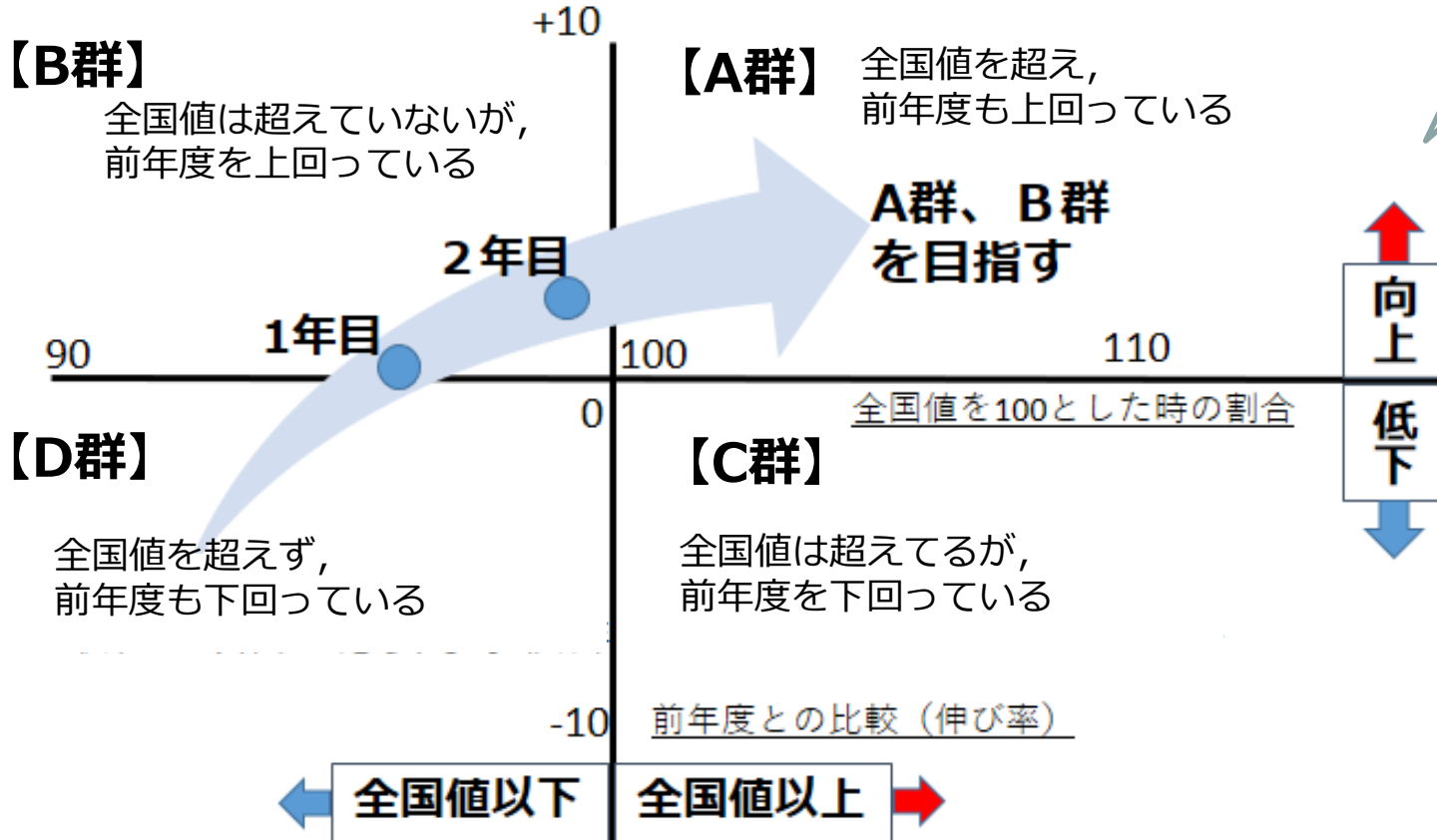
○

校内研修シート④ 「伸び」を分析する

※同一集団の伸びに着目した分類 「熊本の学び」アクションプロジェクトハンドブックより一部修正

学校群の4分類について

※横軸は、全国値を100とした時の割合、
縦軸は、前年度と比較した伸び率
(全国値を100とした時の割合の差)を算出。



①令和3年度の県学調の結果から、自校を【A群】から【D群】に配置すると、令和4年度全学調の結果では、自校は何群にあたるでしょうか。

群

②「伸び」を分析し、その要因を書きましょう。

③今後の取組を話し合いましょう。

※県学調と全学調では、全国の調査に参加している母体数は異なります。

校内研修シート⑤「正答率等の経年変化から授業改善へ」

※今回の結果と前年度の県学調の結果を書き入れましょう。（全国を100としたときの自校の割合など）

※教科全体の結果に限らず、学習指導要領の領域や評価の観点など、各学校や各先生方が重点とされている内容について比較してみましょう。

	比較する教科や内容（ ）	
	R3 県学調	R4 全学調
自校		
伸び		
本県		

～分析～



～今後の取組～

校内研修シート⑥「正答率等の経年変化から授業改善へ」（中学校）

※中学校3年生が、小学校6年生の時（平成31年度）の状況と比較してみましょう。

	国語 (全国平均を100としたときの割合)		算数・数学 (全国平均を100としたときの割合)	
	H31全学調 (小6時)	➡ R4全学調 (中3時)	H31全学調 (小6時)	➡ R4全学調 (中3時)
自校				
伸び	/		/	

～分析～

・

～今後の取組～